

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100017		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム秋桜		
所在地	長崎県長崎市滑石6丁目4番3号		
自己評価作成日	平成23年1月7日	評価結果市町村受理日	平成23年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは地域密着型サービスに位置づけられていることで、地域との連携に力を入れています。地域の行事にご招待を受けたり、施設のお祭りや文化祭、餅つき会などにご招待し、積極的に地域の方々との交流、連携に力を入れています。地域の小学生との交流学習を通して、一緒に作品を作ったり、コミュニケーションを図ったりすることで世代を超えた交流ができています。また3ヶ月に1回は運営推進会議を開催し日々の活動報告や情報交換を行っています。「ゆったり、楽しく、ありのままに」を理念として、利用者の方々楽しく穏やかに生活ができるよう季節に応じた外出活動や日々の充実を図り、お一人お一人がご自分のペースで生活できるように工夫しながら支援を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成23年1月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム秋桜」は2つのユニットがあり、1番地、2番地と名付けられている。施設長、各ユニットの指導員のお人柄もあり、職員の意見やアイデアを活かしたケアが行われている。ご利用者の方々は90歳代の方も多く、医療連携を図りながら健康管理も続けられており、ちょっとした体調変化にも対応できるよう観察力を高めている。季節に応じて、大村富浦園、滑石大神宮への花見、ランタンフェスティバル、初詣に護国神社に参拝する等の外出支援と共に、個別支援も行われており「美容室に行って顔そりやパーマをかけたい」と希望される方に同行したり、お孫さんの結婚式に参加するために綺麗にお化粧し、おしゃれをして参加するためのお手伝いもさせて頂いた。また、塗り絵などの趣味がある方には、お好きなことをして過ごして頂いている。ご利用者の方から「何かすることはいいですか?」と言って下さり、お手伝いをする事が習慣になっている方もおられ、職員は日々感謝の気持ちを伝えている。今後も、ご家族や地域の方々との交流を深め、共に集う時間を大切にしていきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については朝礼時に職員で読み上げを行っている。また理念に基づいて地域の子供たちとの交流学习を行ったり、地域の行事へご招待を受けるなど交流が図れている。施設の活動にも地域の方々に積極的に参加して頂いている。	ホームでは「ゆったり楽しくありのままに」を理念として掲げており、ご利用者のお気持ちに寄り添い、理念の実践ができるように職員間の意見交換を続けている。地域の小学校の子供たちが施設へ来訪し交流学习を行ったり、地域の保育園のお遊戯会や運動会へお招き頂く等、地域交流も続けている。	法人の理念に基づき、地域との交流に力を注いでこられた。今後も、ボランティアの方の受け入れを行っていきと共に、今まで以上に地域の方々との交流を図っていきたいと考えられている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公園へ散歩をすることで子供たちと話をしたり、小学生との交流学习を通して交流が図れている。交流学习以外にも子供たちが自ら施設に遊びに来て利用者と一緒に物を作るなど交流が出来ている。	地域の清掃活動に参加し、地域行事等には職員がボランティアとして参加している。施設の祭り等には地域の方々からボランティアとして来て頂けており、滑石ふれあい秋祭り、滑石中学校秋滑祭、四つ葉のクローバーコンサート、滑石保育園の運動会等にも参加し、地域の方々との交流を続けている。	子ども達が遊びに来る機会が増えてきている。今後も引き続き、地域との交流の機会を今以上に増やし、顔馴染みの関係を作りたいと考えている。地域の方に、気軽に立ち寄って頂けるような取り組みを期待していきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流学习や地域行事への参加を通して認知症への理解や関わり方などを少しでも知って頂けるよう努めている。また認知症サポーター養成講座に事業所を代表してキャラバンメイトを派遣している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回開催している。会議では日々の活動報告や行事予定、その他の報告を行っている。それらを通してボランティアのご協力を頂いたり、参考になる情報を頂いたりして会議をきっかけに交流が広がっている。	ご家族、民生委員、地区会長、マンション管理人、市役所の方等に参加頂いている。日々の活動状況を写真を使って説明しているが、「運営推進会議での活動報告を他の家族にもお伝えしたい」との思いから、22年5月から、3ヶ月おきにホーム便りを作成することにした。運営推進会議をきっかけに、地域との交流も広がっている。	今後も運営推進会議の場を活用して、地域との連携を深められるよう情報交換を行っていきたいと考えられている。ホームを利用されている方々の意見や感想を、会議に反映できるように努めていく予定にしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で助言を頂いたり、電話連絡等で関わる以外ほとんど関わりが持てていない状況である。また介護相談員の受け入れを行なっている。	法人として、市の介護予防事業を受託していることで、施設長を中心に、頻回に担当者との連絡を取り合っている。運営推進会議の際にもご意見を頂いており、介護相談員の受け入れも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で身体拘束の委員会を立ち上げ、事業所全体で勉強会を行い取り組んでいる。防犯上の配慮として夜間帯や職員が一人の場合はユニットの入り口を施錠しているが、それ以外は開錠して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事例を使用しての勉強会に参加し、意見交換が行われており、日々のケアにも活かされている。転倒が予測される方には、ご家族へ予想されるリスクを説明し情報共有に努めている。ベッド臥床時の転倒防止のための話し合いも行われ、ベッド下にセンサーを置く事など、ご家族にも説明を行った。	「待つて」等の行動制限にあたる言葉も減ってきている。今後も、日々の取り組みや研修会の中で、施錠含めて、再度身体拘束にあたる行為を職員間で認識していきたいと考えている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待においては、上記の委員会でも議題として取り上げ勉強会を行っている。職員一人一人が常に意識して注意しながら取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については長崎市グループホーム連絡協議会の地区会において研修があり学ぶ機会を持つ事ができた。この1年を通して、それらを活用することはなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書と契約書に沿って丁寧に説明している。分かりやすい表現で説明し、質問や不明な点はないか確認しながら理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会においてご家族から意見や要望を頂く機会を設けユニットの入り口に意見箱を設置している。面会時や電話などにおいて要望や不安などを気軽に話せるような雰囲気作りを行っていく必要がある。	面会時や年1回の家族会の時に「何かないですか」と聞くようにしており、ご家族からも「自分達にできることがあれば言って下さい」等のお言葉を頂けている。「活動量を増やして下肢筋力や体力の維持を行なって欲しい」等の意見を頂き、風船バレーや棒体操なども取り組まれた。	今後も、ご家族が気軽に意見を言って頂ける関係を作っていきたいと考えている。ご家族にも相談しながら、介護計画の中に“ご家族の役割”等も盛り込みながら、より具体的な意見を伺っていく予定である。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個別面談、意向調査等において職員の意見や提案を聞く機会はある。それ以外でも積極的に意見や提案をもらえるような環境作りを行っていききたい。	月に1回のユニット会議や職員の個別面談が行われている。職員からの意見は多く、人員体制や他部署へ応援に行くことへの課題などの意見も聞かれており、法人全体で検討されている。年に1回は、職員に対する意向調査も行われており、理事長に直接、希望や意見が伝えられる機会が設けられている。	施設長は、職員の待遇面の見直しを行なうと共に、働きやすい環境を作っていく必要があると考えられている。一つ一つの課題を明らかにし、その課題を解決できる方法を、職員と共に考えていける場が、より多く作られていくことを期待していきたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課において毎年1回、職員の評価を行っているが、改善の必要性があると感じる。職場環境や条件の整備においても職員の意見を取り入れながら工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や勤務年数に応じて、必要な研修等へ積極的に参加してもらっている。研修後は報告書を元に会議で報告したり、他の職員へ回覧して研修会の内容を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市グループホーム連絡協議会を通じて他の施設との交流や勉強会を行いネットワーク作りを行っている。相談員だけでなく職員の参加も積極的に促して相互の意見交換等を行っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の言葉の中からどうしたいのか、何が不安でニーズは何かということを知ろうと努力し、少しでも安心して過ごして頂けるよう努めている。生活歴や現在の状態等をじっくり伺い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談でご家族から情報を得る中でご家族の不安な思いや気持ちを汲み取りながらお話している。ご家族の言葉一つ一つに耳を傾け安心してサービスを受けられるように関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族からお話を伺い、ニーズは何か、今必要としていることは何か、思いを受け止めながら見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事援助を含めできることは一緒に行っている。野菜刻みや洗濯物たたみ、買い物同行等、利用者の負担にならないよう一緒に行い、生活を共にする入居者同士の関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係性は大切にしており、絆を大切にしながら日々の報告や連絡等をこまめに行っている。面会になかなか来られないご家族へは電話連絡やお手紙にて報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームへ利用者の馴染みの方が来訪されたり、実際に利用者が馴染みの場所へ行くなどの機会があった。利用者の気持ちを大切に、途切れないように支援している。	ご主人のお墓参りや昔住んでいた家にご家族と一緒にいけたり、昔の職場の同僚だった方が、ご家族を通して会いに来られた事もあった。買い物に同行して頂く事で、自宅の近所の方にお会いし、懐かしそうに話が弾む事もあるなど、馴染みの関係を大切にしたい支援が行われている。	ご利用者の馴染みの人や場所とのつながりを今後も大切にしていきたいと考えている。今後も、ご家族より馴染みの関係の方や生活歴等の情報収集を行う予定であり、把握できた情報は共通シートに残していく予定である。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が仲良く穏やかに生活できるように職員が仲介役となって間に入り、関わりを持っている。孤立する利用者がいないよう気を配り関係作りに努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所された方においては、ご家族と連絡を取り合いながら、その後のフォローに努めた。関係が途切れないよう配慮し、実際にご本人に会いに行ったり、ご家族より経過をお聞きするなどその後の支援に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バイタルチェックや健康状態の記録など、こまめに行っている。少しでもいつもと違うような症状が見られたときは、ご家族へ連絡し受診するなど連携を図って早めの対応を心がけている。	日々の生活の中で、ゆっくり、ご利用者の意向や要望を伺う時間を作るようにしている。意思疎通が難しい方には、ご家族に生活歴を伺ったり、ご利用者の何気ない一言やつぶやきをご家族に伝え、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活習慣、好み等についてご本人やご家族へその都度確認し、サービスへ取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事量や排泄の有無、バイタルなど細かくチェックしており、職員間の申し送りや連絡等もこまめに連携して行うよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを行い、ご本人やご家族から意見や要望を伺っている。作成した介護計画をチームで援助していけるよう今後も取り組んでいきたい。	毎月、会議の時に職員全員で話し合い、担当の職員を中心に計画の作成をしている。シートの改善も続けながら、計画には、“屋上、散歩、地域の行事”等の外出や、日常の役割も盛り込まれている。ご家族と密にコミュニケーションを図り、ご本人やご家族の意向を取り入れるように努めている。	今後も、職員が集う機会を増やす予定にしている。介護計画の定期的な見直しを行い、現状に即した計画を作成し、チームで取り組めるようにしていきたいと考えている。ご家族の役割も盛り込めるように、話し合いを続ける予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌やケース記録、連絡ノート等に利用者の様子や気づきなど細かく記載し、情報を共有する努力をしている。小さな気づきを大切にして、細かなところまで職員で話し合い改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	音楽療法の先生に月2回来てもらい、音楽を楽しんで頂いている。また買い物や受診、美容室への外出など本人のご希望に合わせて対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームは地域資源を活用する機会があまりないので、今後もご本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな生活ができるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、受診はご家族にお願いしているが、どうしても難しい場合や緊急時は施設で行っている。ご家族、主治医、施設の情報交換を密に行い、利用者が安心して適切な医療が受けられるよう支援している。	希望する医療機関に受診できるようにしている。受診に同行したご家族から結果を伺い、ケース記録等に記載しており、職員が受診同行した場合は、結果をご家族へ電話連絡している。一方のユニットでは、ほとんどの方の受診はホームが行っており、その他の方は往診を受けている。	今後も、主治医への報告、連絡、相談をより密に行い、積極的に連携を図り、急変時等にも、より細やかな指示を伺っていききたいと考えている。今後も、かかりつけ医との連携に向けた取り組みを続けていく予定である。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師がいないために判断に迷う場合は事業所内の看護師に相談している。また直接主治医へ連絡して指示を仰ぐこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院とこまめに連絡を取り合い、情報の共有に努めている。また些細なことでも病院側へ相談し、病院側との関係作りにも気を配っている。気になることは主治医の指示を仰いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や重度化した場合について施設の方針や対応等においてご家族へ説明している。現在、看護師がいないために重度化や終末期における対応は難しいが他のサービスを申し込んだり、できる限り施設で生活できるよう努めている。	入居時に、ホームで「できること」「できないこと」を説明し、重度化に備えて他のサービス利用の申し込みをして頂いているが、可能な限りホームで生活して頂けるよう、日々の体調管理や身体機能維持に努めている。主治医とご本人、ご家族、職員と話し合いながら、状況に応じた対応方法の検討が行われている。	重度化や終末期に関しては、ご家族が一番不安に感じていることでもあるため、早めの段階からご家族と意見交換を行っていく必要性を感じている。医師やご家族を含めて、更なる話し合いが行われていくことを期待していきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えてマニュアルを作成したりAEDを設置して急変や事故に備えている。心肺蘇生法やAEDの使用方法について学ぶ機会があったので、今後も一人一人が実践力を身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災における避難訓練は行っており、職員も意識して取り組んでいる。誘導方法や声かけ、対応など周知徹底に努めている。地域の方々との協力体制も築いている。	年に3回、消防署の指導(1回)を受け、昼間(1回)・夜間(2回)を想定した訓練が行われている。近隣のマンションの掲示板に避難訓練のお知らせを掲示したり、アナウンスを流すなど、地域の方々への協力依頼も行われている。施設の1階に厨房があり、数日間の食料は保管されている。	今後も引き続き、災害時に備えて、飲料水や食料品の備蓄、保管場所等も含めて考えていく必要があると考えられている。今後の取り組みに期待していきたい。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が不快にならないような声かけや対応を心がけている。特に排泄や入浴時は十分に配慮して対応しお一人お一人に合わせたケアに努めている。	言葉かけや対応において、どんな時でもご利用者のプライバシーを損ねないよう十分注意しながら対応している。日々の業務の中で、少し気になる言葉が聞かれた時は、その都度注意を行い、勉強会も行われている。個人情報保護については採用時含めて研修が徹底されており、常に意識した対応が取られている。	行動制限等含めて、職員は日頃から意識を続けてきた。時折、家族的な関わりに近いような言葉かけになるため、今後、日々の言葉かけを振り返り、尊厳ある対応の仕方の検討を続けていく予定である。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を言いやすい雰囲気を作り、可能な限り対応するよう努めている。(ご家族への電話、買い物等)またどうしても困難な場合は言葉や対応でフォローしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や清潔保持など優先順位をつけ行っている。その方のペースに合わせて対応しているが、利用者から要望の声が上がることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は身だしなみを大切に、お気に入りの洋服に着替えて頂いている。化粧やおしゃれなどがもっとできるような機会を作っていきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理をしたり、盛り付けをして頂くことで利用者のいきがいにも繋がっている。好みや食事形態にも配慮している。おやつ作りも月に2回行っており、楽しく取り組んでいる。	厨房で作って頂いたお弁当を持ってお出かけしたり、出前を利用することもあり、ご利用者に好きな物を選んで頂いている。職員手作りのおやつ(どら焼き、たこ焼き、お好み焼き)も、ご利用者に喜んで頂いている。栄養バランスに配慮しながら、ご利用者の好みを献立に盛り込むなどの工夫もされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が少ない人はこまめにチェックし補給を工夫している。体重減少や浮腫などにも気を配っている。職員で声を掛け合って対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っているが、自立されてきたかの確認が不十分なときがある。2週間に1度歯科の口腔ケアを定期的を受けている方がいる。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しこまかくチェックしながら状態を確認している。可能な限りトイレで排泄していただけるように努めているが、タイミングが合わないこともある。	月1回のミーティングで、排泄支援の話し合いも行われている。お食事前にトイレ誘導したり、ご本人の表情や落ち着かない状況をみながら、トイレ誘導を行っている。タイミングが合わなくて失敗された方には、「気持ち悪かったですね」と声をかけ、さりげなくトイレに移動して頂き、後始末の支援が行われている。	排泄介助を拒まれることで、排泄への支援が思うようにできない方もおられ、失敗される回数を可能な限り減らしていきたいと考えている。職員による更なる見守りの強化を図っていく予定である。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂って頂いたり、下剤の調整をして個々に応じた対応を心がけている。腹部のマッサージを行ったり、主治医に相談して指示を仰ぐなど対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に一度入浴して頂いているが、職員の勤務の都合上、タイミングがずれることがある。もっとご本人の希望に合わせて対応していきたい。	ご利用者の希望もあり、入浴回数を週2回から3回に増やし、清潔保持に心がけている。お正月には、「初湯に入りたい」との希望もあり、ゆずを入れた入浴を楽しんで頂いた。入浴を好まれない方には、前日から入浴の予定時間をお伝えしたり、声かけの仕方を工夫する等の配慮も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々で自由に休んで頂けるように取り組んでいる。表情や言葉に注意し休息を促したり、ゆっくり休めるよう空調管理や衣類の調節など環境の工夫を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケース記録に処方内容の紙を挟み、いつでも確認できるようにしている。誤薬がないよう薬の管理は徹底し、必ず利用者が服薬したのを確認してからその場を離れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵などの趣味がある方には、お好きなこととして過ごして頂いている。また嗜好品を好まれる方は一緒に買い物に行き、お好きなものを購入して頂き気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物にお誘いして一緒に外出したり、地域の行事や催し物へ参加して楽しんで頂いた。また外出先で知り合いの方と会うこともあり、地域との交流もできた。	大村公園や野母崎水仙見学等へ出かけている。体調の関係で、ご利用者全員での外出が困難になってきたため、小中学校のイベント等、少人数での外出支援を行っている。散髪やおくち見学等、ご利用者の希望で個別の外出支援も行っている。暖かくなったら施設周囲をお散歩したり、おやつを食べに外出する予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	貴重品はグループホームにてお預かりしている。買い物の際は、レジにてご本人へ財布をお渡しし、お支払いして頂くなど配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方には、ご家族や兄弟の方へ電話をかけることで安心されることが多かった。手紙についてはあまり支援できていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境面においては入居者が快適に過ごせるよう環境整備に努めていく必要がある。季節感を取り入れ、ディスプレイの工夫をしている。	リビングの一角には掘こたつのある和室があり、リビングにはソファが置かれ、ご利用者が思い思いの場所で過ごされている。空調の温度設定には気を配り、ご利用者が快適に過ごせるように努めている。たまに食事の時のテーブルの配置を変えて気分転換を図って頂いたり、掲示物や活動写真等も定期的に取り替えるように努めている。	一方のユニットでは、外の景色を眺めながら、一人でゆっくり過ごせるような造りに取り組んでいく予定にしている。ご利用者の意見も聞きながら、更なる心地よい空間作りとなっていくことを期待していきたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掘こたつの活用を工夫していく必要がある。またソファやテーブルの配置を工夫しながら心地よく過ごして頂けるよう工夫していきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや居室が分かるように工夫している。布団やタンスなど使い慣れたものを使用して本人が安心して生活できるよう工夫している。	お部屋には、鏡台とクローゼットが備え付けられており、ご利用者の体調に合わせ、電動ベットを使用している。使い慣れたタンスや姿見、仏壇、座椅子、テーブル、写真等を持ち込んで頂いている。お部屋がわかるように、居室の前に大きく「〇〇さんのお部屋」と書いている紙が貼られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすいように目印をつけたり、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		

事業所名: グループホーム秋桜

作成日: 平成 23 年 3 月 20 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画に対してモニタリング期間3ヶ月ごとを設けるようになったが、ご家族を交えての話し合いの機会を増やすことは出来ないか。	お一人ずつのケース会議の機会を設ける。ご家族も参加して頂く。	ユニットごとの会議とは別に、ケアプラン作成中心のケース会議を行う。(月1回) 出来る限りご家族の参加を呼びかける。	6 ヶ月
2	20	生活歴等の情報収集分を書面にしていないこともあり統一した把握が出来ていない。	入居者の生活をよりよくするために生活歴を把握し援助の方針を決定して行く。	生活歴等やご家族から情報収集したものを書面化できるようにシートを作成し、書き込んでいき把握に努める。	6 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月